
月の騎士(ムーン・ナイト)

阿僧祇

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ムーン・ナイト
月の騎士

【Nコード】

N2162V

【作者名】

阿僧祇

【あらすじ】

ラストイスは三流の騎士。闘技会^{トーナメント}で全財産を失い、徒歩でふらふらと故郷へ帰る途中、空腹で倒れ掛かったときに、肉を焼いている盗賊たちと出会ってしまった。／ 8p想定の漫画脚本形式。

(前書き)

■ あらすじ>

ラスティスは三流の騎士。トーナメント闘技会で全財産を失い、空腹を抱えて
徒歩で

故郷へ帰る途中、森の中で肉を焼いている一団と出会う。

ラスティス…三流の貧乏騎士。

ゴンブロゾー…5人組のボス。名うての大悪党。
4人の男達…ゴンブロゾーの手下。

エレーナ…大貴族の姫様。
侍従…エレーナの侍従。
侍女…エレーナの侍女。

客A…居酒屋の客。

客B…同。

客C…同。

試合相手…騎馬槍試合でラスティスと対戦した重武装の騎士。

■物語＞

[1]

□

T「月の騎士(Moon Knight)」

(扉絵はラスティスを、高貴な騎士っぽくカッコ良くお願いします☆)

□

パパラ パパー♪

トナメント 闘技会の会場。テントが沢山見える。

ドドドドドド・・・ (遠くから響く馬蹄音)

[2]

□

ドカッ！

騎馬槍試合の真っ最中。稽古槍で突き飛ばされる、フルプレート重武装のラスティス。

□

ズドドッ……

ラスティス、派手に落馬。試合相手、遠方で馬首を返している。

パパーパーッ♪

(場面転換)

□

ちゃりん

手の中に残る、硬貨数枚。

□

町中を歩いてる、平服のラストイス。マントはぼろぼろで、ほころび糸だらけ。

ラストイス「ふう…剣だけはなんとか請け出せたけど。」「負け続けで、とうとう楯も

鎧も馬も買い戻せなくなっちゃったな……」

□ ラステイス、硬貨をつまんで眺めながら溜息。

ラストイス「給与が足りなくて従者も解雇……マントまで拾った古着で……故郷の屋敷へ

は歩いて帰るしかない、ときたか。」

（場面転換）

□ ホーッ ホーッ

夜の森。月が出ている。

〔3〕

□ ラステイス、疲れきった表情で森の中をうろついている。

□ ラステイス「は……腹減った。」

□ ガクッ

膝をつき、

□ バタッ

うつ伏せに倒れてしまう。

□ ラステイス（心の声）「このまま餓死するのかなあ……」
「闘技会^{トーナメント}は負け

続け。騎士としての功名も無し。奥方も無し。ロクでもない人生だった……」

□ ラステイス（心の声）「貧乏騎士、ここに眠……」

パチパチパチ……

ハハハ……

遠くの方で音がしてる。

ラステイス「？」

「4」

□

ガサ…

ラステイス、藪を掻き分け、のぞいてみる。

□

ワハハハ……

5人の、ガラの悪そうな男達が焚き火をしている。酒を酌み交わし、火には肉が炙られてる。

□

ゴクッ！

目を見開くラステイス。

□

焚き火の肉から香ばしい匂いが漂う。

□

ラステイス、目を瞑る。

□

ラストイス、決意の表情。

[5]

□ ラステイス「うわああああっ！」

ラストイス、必死の表情で剣を振りかざし、飛び出す。驚愕する5人の男達。

□ ドバッ！！

剣を抜こうとしたゴンブロゾーに、一瞬早くラストイスの剣が打ち込まれる。

ゴンブロゾー「うがあああっ！」

□ のこり4人の男達「ボスがやられた！」 「うわあああ！」

パニックになり、逃げていく。

□ ハアッ ハアッ ハアッ

血剣を下げ、返り血を浴びて突っ立つラストイス。

□ ラステイスが焚き火の肉の串に手を伸ばそうとすると：

声「もし」

（ここから後、P. 7の場面転換まで、この場が「暗い」ということを強調お願いします）

[6]

□ 向こうの暗がりには、縛られてるエレーナと侍女と侍従が、喜びの表情。

□

□ エレーナ「助けていただいてありがとうございます、騎士さま！」

□ ラステイス（串を手にもみながら）「あなた方は？」

侍従「このお方は、アールヘム大公の御息女、エレーナ姫様。」
名うての悪党・

□ ゴンブロゾーに捕まってしまったのです。」

□ ラステイス（焦）「ゴ、ゴンブロゾー！？ 大勢の騎士や戦士が返り討ちに遭ってる

大悪党じゃないですか！ それは大変！！」

□ ラステイス、3人の縄を切って

ラステイス「すぐ逃げましょう！」

□ エレーナ「いえ、その必要はありません。」

□ エレーナ「何者も倒せなかったゴンブロゾーを、果敢な奇襲作戦で一撃に葬ってしまう

とは……さぞかし名のある騎士さまと拝察します。どうぞお名前を！」

□ エレーナの目はきらきら。

□ ラステイス、呆然。

[7]

□ ボロマントを翻し、三人に背を向けるラステイス

ラステイス「名、名乗るほどのものではありません。では姫様、道中気を付けて。」

□ エレーナ「あ、お待ちください、騎士さま！」

ラストイス「ア・デュー！」
タッ！

月の方へ向かって走り去っていくラストイス。

□
ラストイス、暗い森の中を走って逃げる。

ラストイス（汗）「腹が減って略奪しようとしただけなんて、とても言えねえ……」

口には肉を加えたまま。

（場面転換）

□ 数日後の居酒屋。

何人かの客に混ざり、ラストイスもエール酒のジョッキを手に。

□
客Aの声「聞いたかい、あの噂。」

客Bの声「エレーナ姫様を助けた『月の騎士』かい？ 聞いた聞いた。」

ラストイス、噂話に気づいて聞き耳を立てる。

〔8〕

□
客B「あの大悪党ゴンブローをたたっ斬り、名も告げずに立ち去ったっていうじゃないか。」

客C「何者なんだろうな、いったい？」

客A「父親の太公が、姫様の婿にするため必死に探してるっていうぜ。」

□
ラストイス「ああ、それは……」

客Aの声「なんでもよ……」

□

客Aの声「暗くてよく見えなかったけれど、相当の美男子だろうってことだな。」

客Bの声「マントにたくさんの飾り紐を着けた洒落者だって聞いたぜ。」

客Cの声「かなり高貴な血筋の方であることは間違いねえだろうな。」

顔がひきつってゐるラスティス。

□

客A「名乗り出れば出世まちがい無しなのに、名乗らないところが奥ゆかしいじゃねえ

か。なあ！」

客B「まさに男の中の男だぜ！」

客C「長く語り継がれるだろうな、ゴンブローゾを倒した『月の騎士』の伝説は！」

客A「それにしても、誰なんだろうなあ！」

盛り上がってる客たちに背を向け、ラスティスは涙を流しながら無言でエールを煽るのだった。

—THE END

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2162v/>

月の騎士(ムーン・ナイト)

2011年10月9日11時16分発行